

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
乳児保育Ⅰ		こども未来教育学科／3年	2027／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中居 雅子
授 業 の 概 要				
3歳未満児の保育についてその概念と意義を理解し、制度と現状を理解する。また3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につける。				
授業終了時の到達目標				
3歳未満児の成長発達と発達課題、保育内容、保育の実践方法を理解する 近大試験合格				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭・保育士 あなかれ保育園保育士			
時間外に必要な学修				
【準備学習】				
テキストを熟読する。				
回	テ ー マ	内 容		
1～ 2	乳児保育はなぜ必要か―社会的背景から考える 「子ども・子育て支援新制度」―乳児保育に関わる制度を理解する	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)の作成をする。 ○1. 地域型保育事業とは何か、事業の概要や4つの類型の内容、課題等について説明しなさい。 ○11. 認定こども園とは何か、その機能や導入の社会的背景、4つのタイプ等について説明しなさい。		
3～ 4	「保育所保育指針」における乳児保育のポイント①② 乳児のこころの発達―身近な人との絆を育む過程	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)を作成する。 ○3. 保育所保育指針〈平成29年告示〉に示された0.1.2歳児の保育に関する事項について、要点をまとめなさい。 ○4. 母親など養育者との関係と子どもの心の育ちについて考察しなさい。		
5～ 6	乳児のことばの発達―思いを伝え合う手段を得る過程 保護者との連携を考えよう―乳児をとりまく協力関係をめざして	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)を作成する。 ○5. ことばの発達過程と保育者の関わりについてまとめなさい。 ○8. 「虐待」とはどのような行為か、また虐待が疑われる場合の保育者の対応について考察しなさい。		
7～ 8	乳児保育における複数担任制―保育者同士の連携のあり方 保育所で過ごす1日の流れ―年齢別デイリプログラム（日課表）	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)を作成する。 ○6. 乳児保育における「複数担任制」によるクラス運営の実際や、その利点と欠点から、保育者同士の連携のあり方を説明しなさい。 ○7. 保育所における0歳児・1歳児・2歳児クラスのそれぞれの「生活」と保育者の関わりについて、概要をまとめなさい。		
9～ 10	かみつき・ひっかきへの対応について―トラブルの背景と保護者との連携について 連絡帳の書き方―子どもの育ちを保護者とわかち合う	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)を作成する。 ○9. かみつきなどのトラブルについて園と家庭の両面からの関わりを考察しなさい。 ○11. 園での保護者との連携路連絡帳のやりとりで大切にしたいことを説明しなさい。		
11～ 12	乳児保育における安全管理①―乳児期特有の病気と薬の扱いを学ぶ 乳児期にいける安全管理②―乳児を事件・事故から守る方法を知る	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)を作成する。 ○10. 乳児保育における安全管理について説明しなさい。		

回	テ　　マ	内　　　容		
13～ 15	近大試験対策	設題のポイントを確認する 連絡帳を書く ワークシートをする		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめて学ぶ乳児保育（同文書院）		期末試験 課題・レポート	70.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
乳児保育Ⅱ		こども未来教育学科／3年	2027／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	中居 雅子
授 業 の 概 要				
0.1.2歳児の成長発達と発達課題、保育内容、保育の実践方法を学習する				
授業終了時の到達目標				
0.1.2歳児の発達についての理解を深める 沐浴や調乳について一連の流れを知り、実践できるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭・保育士		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	乳幼児の安全管理について 幼児の視界について		乳幼児の安全管理（乳幼児特有の病気や感染症、日常生活おける危険など） チャイルドビジョンの製作と体験、グループワーク	
3～ 4	沐浴、衣服の着脱、おむつ交換 調乳、授乳		沐浴、衣服の着脱、おむつ交換の実習 調乳、授乳の実習	
5～ 8	手作りおもちゃの製作		0.1.2歳時の発達段階を考慮したおもちゃを製作する 安全面、素材、どこに働きかけるものか、子どもたちが遊ぶことを想像して喜びそうなもの	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめて学ぶ乳児保育（同文書院）		総合評価	100.0%	【準備学習】 テキストを熟読する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの健康と安全		こども未来教育学科／3年	2027／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	永井 智子
授 業 の 概 要				
科目は、保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助を理解し、関連するガイドラインやデーターを踏まえ保育における衛生管理、事故や災害などからの危険回避に努めなければいけないことを理解し、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。また、子どもの健康・安全管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画や評価について理解し、多様な子どもたちをより健康に豊かに育て将来に見据えた知識と技能の修得をねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
①保育における保健的観点を踏まえ保育環境や援助について説明できる。 ②関連するガイドライン・近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に説明できる。 ③子どもの体調不良に対する適切な対応について、具体的に判断できる。 ④感染症予防についてガイドラインや患児数統計など近年のデータ等踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に説明できる。 ⑤保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に説明できる。 ⑥子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具合的に判断できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師実務：12年 看護教員実務：14年（小児科臨床実習指導有） 短期大学講師（生活学専攻・保育学専攻）3年 専門学校非常勤講師：2年6カ月（医療事務・クラーク学科）1年（こども学科） 以上の実務経験を生かし、2018年の保育士養成課程の改定で「子どもの保健」の知見が「乳児保育」「保育の心理学」にも広げられ、保育のスペシャリストを目指す学生達が、子どもの健康をより深く、将来を見据えた知識と技能を身に付けられるよう指導する。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	保育的観点を踏まえた保育環境及び援助	①子どもの健康と保育環境事例検討 ②子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理事例検討 ③衛生管理（歯磨き・うがい）		
2	保育における健康及び安全の管理	①事故防止及び安全対策事例検討 ②災害への備え事例検討 ③危機管理		
3	子どもの体調不良等に対する適切な対応Ⅰ	①体調不良や傷害が発生した場合の対応事例検討 ②応急処置事例検討 ・熱中症		
4	子どもの体調不良等に対する適切な対応Ⅱ	①救急処置及び救急蘇生法 ・AED・心臓マッサージ・人口呼吸法		
5	感染症対策	①感染症の対応及び予防法：正しい手洗いの方法 ②感染症の対応及び予防法：マスク装着の仕方		
6	保育における保健的対応	保育における保健的対応の基本的考え方を踏まえ、個別配慮を要する3歳未満児・障害のある（てんかん・発達障害・アレルギー性疾患）の子ども事例検討		
7	子どもの健康及び管理の実施体制Ⅰ	①職員間の連携・協働と組織的取り組み ②保育における保健活動の計画及び評価の必要性		
8	子どもの健康及び管理の実施体制Ⅱ	①母子保健・地域保健における自治体との連携 ②家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
	・ 保育所における感染症対策・アレルギー対応ガイドライン：厚生労働省 ・ 熱中症環境保健マニュアル：環境省・消防庁 ・ 厚生労働省子ども家庭局：対策参考資料(児童虐待防止対策) 応急手当普及ビデオ「緊急時の応急手当と事故防止」	演習・課題・発表	100.0%	主体的に意欲をもって授業に参加する 「準備学習」 次回の授業内容を踏まえて資料収集等準備をする

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育・教職実践演習		こども未来教育学科／3年	2027／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
1. 教育課程の全体を通して、保育士・教諭として必要な保育・教育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育・教育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士・教諭、保育・教育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を図る。				
授業終了時の到達目標				
以下の観点について理解し、習得、形成状況を把握している。 ① 保育士・教諭の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理 ② 社会性、対人関係能力 ③ 子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携 ④ 保育や子育て家庭に対する支援の展開 自身の習得した知識・技術等と保育・教育に関する課題等から、自己の課題を把握できている。 その上で、目指す保育士像・教諭像や今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法等を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力が定着できている。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭 現場経験を踏まえ、学生が今まで学んできた幼児教育・保育のあり方、知識、技術などを更に掘り下げ総合的に伝えていきたい。		
時間外に必要な学修				
今までの学習や実習を振り返り、自己課題をみつける。				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	学びの振り返り		意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理	
3～ 4	学びの振り返り		社会性、対人関係能力	
5～ 6	学びの振り返り		子どもやその家庭の理解 職員間の連携、関係機関との連携	
7	学びの振り返り		保育や子育て家庭に対する支援の展開	
8～ 9	課題検討		保育・教育に関する課題の検討	
10～ 11	課題検討		保育・教育に関する課題の検討	
12～ 13	自己課題		各自の習得した知識・技術等と保育・教育に関する課題等から、自己課題の把握	
14～ 15	自己課題		自己課題の解決に向けての取り組み	
教科書・教材			評価基準	評価率
保育・教職実践演習			総合評価	100.0%
				【採点内訳】 課題・レポート 発表

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
図画工作Ⅱ		こども未来教育学科／3年	2027／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	廣兼 貴恵
授 業 の 概 要				
幼児の造形活動に対して、発達段階に応じた適切な支援と造形教育を提供できる基本的な技術を習得する。				
授業終了時の到達目標				
1 創作活動を楽しみ、表現する力の習得 学生が絵画や立体構造作品を作る過程で、自分のアイデアを具体化し、創造的に表現できる力を身につける。				
2 子どもの発達に応じた支援技術の習得 造形遊びを通じて、子どもたちの発達段階に応じた適切な指導方法を学び、実践的な技術を習得する。				
3 作品制作の過程を振り返り、感想文を通じて自己表現を深める 制作した作品に対して自己評価や感想文を記述し、振り返りを通じて自らの表現活動の理解を深めることができる。				
4 鑑賞活動を通じて感性を育む 他者の作品を鑑賞し、そこから得られる視点を自分の創作に活かす力を養うとともに、作品の背後にある意図や感情を理解する力をつける。				
5 保育の場での実践に応用 保育現場において、学んだ造形活動や支援技術を子どもたちと一緒に楽しみながら応用し、造形遊びを通じて子どもの成長を促進できるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭等		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	はじめに 課題作品①		近畿大学九州短期大学の課題作成	
3～ 4	課題作品②-1		近畿大学九州短期大学の課題作成	
5～ 6	課題作品②-1		近畿大学九州短期大学の課題作成	
7～ 8	課題作品②-2		近畿大学九州短期大学の課題作成	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図画工作(近畿大学九州短期大学)		総合評価	100.0%	【準備学習】 前回の授業内で課題提出ができなかった人は、課題を完成させて提出する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
音楽表現Ⅱ		こども未来教育学科／3年	2027／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	日野 みどり
授 業 の 概 要				
幼児音楽にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。				
①楽譜の読譜力				
②リズム感				
③合奏				
④楽譜（音楽の決まりごとを習得する）				
授業終了時の到達目標				
1年次の音楽表現（スクーリング）に引き続き保育活動における音楽の役割を理解し、幼児教育に必要な楽器を使っ ての音楽表現の基礎知識及び指導・援助に関する知識・技術を習得する				
音・音楽・楽器・楽譜による表現を主として、様々な角度から音楽表現について考えます。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		教育現場での音楽指導経験有		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	導入	学生個々の演奏力を掌握したうえで本授業の目標を明確にし、到達点を意識する グループ決め		
2～6	合奏の指導方法を考える 保育現場で使う楽器の特徴	楽器の演奏法 年齢・ねらいに応じて打楽器のリズムを各自で作り、子どもの合奏活動への意欲が高まるようリズム言葉を使い工夫する 子どもの興味・意欲・想像力を高める楽譜を製作する 製作した楽譜を使用して合奏指導の練習		
7	リハーサル	発表へ向けてのリハーサル		
8	音楽発表会	それぞれグループに分かれ、年令にあった曲を創作し演奏発表をする。（それぞれの実践・発表を通じて意見を出し合い、知識・技術・意欲を高めることをねらいとする。）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント こどものうた 200 続・こどものうた 200		実習・実技評価	100.0%	授業は欠課することなく参加すること。 皆と協力し発表会を成功させること。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
ピアノ実習		こども未来教育学科／3年	2027／通年	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	日野 みどり	
授 業 の 概 要					
幼稚園や保育所での子ども達の生活は、音楽を中心として活動が展開されています。					
音楽Ⅰ（１年次）の授業に引き続き幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術（ピアノ）の習得や資質の向上を目指し学習します。					
授業終了時の到達目標					
音が苦しい「音が苦」では子どもが喜びません。ピアノを弾きながら楽しく歌えるよう技術の向上を目指します。 保育士資格・幼稚園教諭免許の取得 採用試験受験レベル（バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバムレベル）の技術の習得 採用試験課題曲(弾き歌い) 卒業演奏会の発表					
実務経験有無		実務経験内容			
有		音楽教室でピアノ講師としての実務経験			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1～6	実習課題曲と採用試験課題曲(弾き歌い) 自由曲(採用試験曲用)		こどものうたより 学生個々の演奏力、音楽経験に即した演習 ピアノ教則本(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバム)の練習・復習 採用試験課題曲(弾き歌い)の練習・暗譜		
7	自由曲(採用試験曲用)試験対策 採用試験課題曲(弾き歌い)試験対策		ピアノ教則本(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバム)の実技試験 採用試験課題曲(弾き歌い)の実技試験		
8～13	卒業演奏会への取り組み		卒業演奏でピアノ演奏する曲決め 演奏したい曲の楽譜を探す・譜読み・練習		
14	卒業演奏会への取り組み		リハーサル		
15	卒業演奏会		公開演奏会（試験） 他学生の演奏を鑑賞する。		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
近畿大学九州短期大学指定「ピアノ教本」 ブルグミュラー ソナチネアルバム ソナタアルバム こどものうた200 プリント等			実習・実技評価	100.0%	授業までに出された課題曲を練習して ること。 採用試験・卒業演奏会に向けて真剣に取り組むこと。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育演習Ⅱ		こども未来教育学科／3年	2027／通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	38回	5単位（76時間）	必須	日野 みどり
授 業 の 概 要				
ピアノの授業に引き続き、幼児教育にあたるための音楽の総合力及び音楽的な保育の能力を追及 合奏演奏、連弾、ハンドベル、合唱など保育現場で役立つ教材研究を行う。 保育園や幼稚園で必要な保育者としての知識や実践的技術の習得を目指す。				
授業終了時の到達目標				
幼児音楽・障害児教育など多くの分野で重要とされている音楽表現、指導上のポイントの習得 ピアノ実習 声楽の集大成としての発表 教材について理解を深める。 保育園や幼稚園で必要な保育者としての知識や実践的技術の習得				
実務経験有無		実務経験内容		
有		教育現場での音楽指導実務経験有り		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	卒業音楽発表会に向けて		卒業音楽発表会の内容について考える オペレッタ グループ決め 教材研究（オリジナルオペレッタ台本作成）	
2～ 33	卒業音楽発表会に向けて		合奏、ピアノ連弾、ハンドベル、合唱など練習をする	
34～ 35	創業音楽発表会（ミニコンサートリハーサル）		ミニコンサートリハーサル それぞれグループに分かれ、演奏発表をする。（それぞれの実践・発表を通じて意見を出し合い、知識・技術・意欲を高めることをねらいとする。）	
34～ 36	卒業音楽発表会		合奏、ピアノ連弾、ハンドベル、合唱など在校生、教職員の前で行う	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		実習・実技評価	100.0%	授業は欠課することなく参加すること。皆と協力し卒業演奏会を成功させるこ

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育演習Ⅲ		こども未来教育学科／3年	2027／通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	中居 雅子
授 業 の 概 要				
保育現場で役立つ教材研究を行う。また、保育園や幼稚園で必要な保育者としての知識や実践的技術の習得をする。				
授業終了時の到達目標				
1. 個人製作（パネルシアター）を完成させる 2. グループ製作（保育実習室壁画・あなかれほいくえん壁画）を協力して完成させる 3. あなかれほいくえんとの交流に向けて、準備をし、実践する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭・保育士		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～5	実習報告会		実習の内容の振り返り、報告会の流れ, 役割分担 2年生への実習の報告	
6～12	個人製作 パネルシアターの製作と発表		パネルシアターの製作と発表	
13～20	あなかれほいくえんとの交流		ハロウィンパーティ	
21～30	実習室展示用作品(共同製作)		作品の製作	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
こども環境管理士		こども未来教育学科／3年	2027／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	廣兼 貴恵
授 業 の 概 要				
幼児を取り巻く自然環境などについて学び、こども環境管理士検定対策をする。				
授業終了時の到達目標				
幼児を取り巻く自然環境などについて学び、こども環境管理士検定の合格を目指す。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	こども環境管理士検定とは 自然環境に関する基礎知識①	自然のしくみ 私たちの生活や社会と自然とのつながり		
2	自然のしくみ 私たちの生活や社会と自然とのつながり	環境問題の原因や現状とその対策 環境問題の解決に向けた社会の動向（法律や条約、時事問題）		
3	自然体験・生活体験を充実させる環境づくり①	環境の時代にふさわしい生活のあり方		
4	自然体験・生活体験を充実させる環境づくり②	子どもが自然と触れ合うことの大切さ 身近な生き物に対する認識、自然の中の危険に対する認識		
5	自然体験・生活体験を充実させる環境づくり③	日常的な自然体験の為の空間づくりに関する基本的な考え方		
6～30	受験対策	過去問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント、冊子		総合評価	100.0%	【準備学習】 過去問題を何度も復習する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児体育指導者検定		こども未来教育学科／3年	2027／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	日本幼少年体育協会検定講師
授 業 の 概 要				
幼児体育指導者検定の受検、対策。				
授業終了時の到達目標				
幼児対象の体育指導者検定に合格をする。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～ 2	理論講習	理論講習		
3～ 4	実技講習	リズム体操、マット運動、縄跳び、跳び箱、ボール		
5	学科試験	学科試験		
6～ 7	実技試験	リズム体操、マット運動、縄跳び、跳び箱		
8	学科試験・実技試験 合格発表 追試験	合格発表 不合格者 追試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼児体育指導者検定テキスト		実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ボランティア実習Ⅱ		こども未来教育学科／3年	2027／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	20回	1単位（40時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
ボランティアの目的や意義を考える。 実習や今まで学んだことをふまえて、実際にボランティア活動を実践する。 就職活動の一環として各施設の募集要項を確認し、ボランティアを実施する中で検討できるようにする。				
授業終了時の到達目標				
ボランティアとして求められる役割を理解し、主体的に行動できる。 ボランティアを通して仕事内容の理解を深め志望する方向性を明確にする。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭 現場における実習生指導の経験を踏まえ、実習に向けての基礎的知識・技術を伝えていきたい。			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～20	ボランティア実習	ボランティアに求められる役割を理解し主体的に行動する。 ・ 保育補助 ・ 清掃活動 実習経験を活かし、自ら考えて行動する。 一日の流れを知るとともに、保育者が子どもたちとどのように関わっているか、どのような仕事をしているのか観察する中で理解を深めていく。 子どもたちや職員と積極的にコミュニケーションを図る。 ボランティアの中で就職に向けて自身の方向性を見つける。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
保育実習事前事後指導Ⅱ		こども未来教育学科／3年	2027／前期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	4回	1単位（8時間）	選択	桑田 由美	
授 業 の 概 要					
保育実習指導Ⅱでは、事前指導として、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所実習）、またその他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅱに向けた準備を行なう。具体的には保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。さらに、指導計画書の作成や記録など保育の実践力を養うことを目的とするまた、事後の振り返りを行い、課題を明確にする。					
授業終了時の到達目標					
保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を習得する。 保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		幼稚園教諭			
時間外に必要な学修					
実習で使える教材づくり。					
回	テ ー マ		内 容		
1～ 4	保育実習による総合的な学び		子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育と保護者支援について		
	保育実践力の育成 計画と観察、記録、自己評価		子どもの状態に応じた適切なかかわり 保育技術を生かした保育実践 具体的な計画と実践		
	保育士の専門性と職業倫理		観察・記録・自己評価に基づく保育の改善		
	事後指導における実習の総括と評価		実習の総括と自己評価 自己課題の明確化		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
保育所保育指針			総合評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅲ		こども未来教育学科／3年	2027／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	4回	1単位（8時間）	選択	桑田 由美
授 業 の 概 要				
保育実習指導では、事前指導として、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（施設実習）、またその他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅲに向けた準備を行う。具体的には、こどもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また家庭支援など保育と支援の実践力を養うことを目的とする。また、事後の振り返りを行い、自己の課題を明確化する。				
授業終了時の到達目標				
保育実習の意義と目的を理解し、施設について総合的に学ぶ。 実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育・支援の実践力を習得する。 保育・支援の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育・支援の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育・支援に対する課題や認識を明確化する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
児童福祉施設、障害者施設の役割について調べる。				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	保育実習による総合的な学び		子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育（利用者の支援）と保護者支援について	
	保育・支援実践力の育成 計画と観察、記録、自己評価		子ども（利用者）の状態に応じた適切なかわり 保育・支援技術を生かした保育・支援実践 具体的な計画と実践	
	保育士の専門性と職業倫理		観察・記録・自己評価に基づく保育・支援の改善	
	事後指導における実習の総括と評価		実習の総括と自己評価 自己課題の明確化	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育実習②		こども未来教育学科／3年	2027／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	40回	2単位（80時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
これまで学習してきた理論を基礎として、教育現場において生きた教育技術を学び、人間性豊かな教師を育成する。 ・ 幼稚園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・ 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して教育の理解を深める。 ・ 子どもの教育について総合的に学ぶ。 ・ 指導計画、実践、記録、省察及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 ・ 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 ・ 幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。 幼稚園における教育実践について専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的にまた総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していく。達成するために第2回の実習では、部分・研究保育を主とする実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。自己課題の明確化。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
実習先の子どもたちに沿った遊びを考え、どんな流れで保育を提供するのかを考える。 また、保育現場で必要な教材を作る。				
回	テ ー マ	内 容		
1～40	幼稚園実習	1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識、技術を統合しながら以下の内容を獲得していく。 ・ 幼稚園における1日の生活、活動の流れと生活、活動内容の概要を理解する。 ・ 遊び、生活場面での園児の行動理解 ・ 園児の行動に対する幼稚園教諭の対応 ・ 部分実習、全日実習、研究保育の指導計画の作成及び指導 ・ 幼稚園教諭としての保育技術の習得および態度の養成 ・ 幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解		
	観察実習 参加実習 部分・責任実習 全日実習 研究保育	保育実践やその後の考察の中で、自己課題を明確にする。 幼稚園教諭としての仕事を具体的に学ぶ。 職員間の役割分担とチームワークの必要性を理解する。 安全及び疾病予防への配慮を理解する。 発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当教諭の指導や助言に従い、積極的に教育実習に参加する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼稚園養育要領		総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習Ⅰ（施設）		こども未来教育学科／3年	2027／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	40回	2単位（80時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や子ども・利用児（者）との関わりを通して子ども・利用児（者）への理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子ども・利用児（者）の保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、保育（援助）の計画・観察・記録及び自己評価等についてや、保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解する。				
授業終了時の到達目標				
①役割や機能を具体的に理解する。 ②子ども（利用者）への理解を深める。 ③子どもの保育・利用者の支援・保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育（支援）の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 ⑥自分が立てた実習課題を達成する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭 現場における実習生指導の経験あり		
時間外に必要な学修				
教材研究及び作成				
回	テ ー マ		内 容	
1～40	施設の役割と機能 子ども・利用者理解 施設における子ども・利用者の生活と環境計画と記録 専門職としての保育士の役割と倫理 観察実習 参加実習		施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わり 施設の役割 子ども・利用者の観察とその記録、個々の状態に応じた援助やかかわり 計画に基づく活動や援助、心身の状態に応じた生活と対応、活動と環境 子ども・利用者を取り巻く社会や家族の問題 健康管理、安全対策の理解 支援計画の理解と活用、業務内容、役割分担と連携 実習指導者の指導や助言に従い、積極的に参加する。 1日を振り返り考察し、学びを深める。	
教科書・教材			評価基準	評価率
保育所保育指針			総合評価	100.0%
				【採点内訳】 評価については、実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採点を行

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
保育実習Ⅱ		こども未来教育学科／3年	2027／前期	実習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	40回	2単位（80時間）	選択	桑田 由美	
授 業 の 概 要					
保育実習Ⅰでの経験とその後の学習をふまえて、自己課題をもち保育所の保育を実際に経験する。この実践をとおして、生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を育成する。また、保育所の保育士に求められる資質・能力・技術を修得し、さらに自己課題を明確化していく。					
授業終了時の到達目標					
保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。					
子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。					
保育実習Ⅰを踏まえて子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。					
保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。					
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。					
保育士としての自己の課題を明確化する。					
実務経験有無		実務経験内容			
有	幼稚園教諭 現場における実習生指導の経験あり				
時間外に必要な学修					
教材作成					
回	テ ー マ		内 容		
1～40	保育所の役割や機能の具体的展開 観察に基づく保育理解 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 保育士の業務と職業倫理 自己の課題の明確化 観察実習 参加実習 部分・責任実習 研究保育		養護と教育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 子どもの心身の状態や活動の観察 保育士等の動きや実践の観察 保育所の生活の流れや展開の把握 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 地域社会との連携 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の理解 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 多様な保育の展開と保育士の業務 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する。		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
保育所保育指針			総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習Ⅲ		こども未来教育学科／3年	2027／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	40回	2単位（80時間）	選択	桑田 由美
授 業 の 概 要				
これまで学習してきた理論を基礎として、福祉施設において生きた養護を学び、人間性豊かな保育士を育成する。保育所以外の児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解を深める。また、これらの実践の中で家庭と地域の役割などに気づき、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。				
授業終了時の到達目標				
児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深める。				
家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を養う。				
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。				
保育士としての自己の課題を明確化する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭 現場における実習生指導の経験あり		
時間外に必要な学修				
実習中には、利用者理解に努める。				
障害や児童の発達状況など				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 40	施設実習		児童福祉施設等の役割と機能 施設における支援の実際 ・ 受容、共感の態度 ・ 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 ・ 個別支援計画の作成と実践 ・ 子どもの家族への支援と対応 ・ 多様な専門職との連携 ・ 地域社会との連携 保育士の多様な業務と職業倫理 保育士としての自己課題の明確化	
	観察実習 参加実習		発達に適した保育・支援の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当指導者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する。	
教科書・教材			評価基準	評価率
			総合評価	100.0%
				【採点内訳】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
P C実習Ⅱ		こども未来教育学科／3年	2027／後期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	井上 翔	
授 業 の 概 要					
インターネットとウェブサイトの基礎を学び、HTML/CSSなどの基礎的なWEB言語またサイトのアップロードを理解する。					
授業終了時の到達目標					
HTMLとCSSの基礎知識を習得し、実際に動作するホームページを作成できる能力を身につける。また、ウェブデザインの基本原則についても理解し、魅力的で使いやすいウェブサイトを作成できる。就職後の職場で情報知識を利用して活躍できる人間となる					
実務経験有無		実務経験内容			
有		・ 0Aインストラクターとして15年の経験 ・ 各種試験対策、実務向けオフィス活用の指導			
時間外に必要な学修					
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。					
回	テ ー マ		内 容		
1	インターネットとウェブサイトの基礎を学び、HTML/CSSなどの基礎的なWEB言語またサイトのアップロードを理解する。		授業の目標と説明 当授業における学習目標の共有と資格取得への動機づけ 生徒同士の交流と先生の自己紹介		
2～3	ウェブサイトの基本構造とタグについて		プリントに沿ってwebの基礎知識を身につける		
4～9	Wixを使ってWEBサイト作成		プリントに沿ってwebサイトの作成を行う		
10～14	Wixを使ってWEBサイト作成（オリジナルサイト）		自分でテーマを決めてオリジナルサイトの作成		
15	WEBサイト発表		オリジナルサイトの発表		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
Wixではじめてのホームページ制作（2023年版） 過去問プリント			期末試験 課題・レポート 制作物	40.0% 30.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
P C実習Ⅲ		こども未来教育学科／3年	2027／後期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	井上 翔	
授 業 の 概 要					
動画編集ソフトを使用して短時間動画を作成する。動画はプロモーションビデオを想定し、動画を作成するための企画の立て方や準備、撮影機材に関して基本的な方法を学ぶ。動画編集においては実際の動画の制作を通して基本的な操作を学び、実際にテーマに沿った映像を作成し発表を行う。					
授業終了時の到達目標					
動画制作の基礎となる知識を学び、機材と動画編集ソフトを使った動画制作を出来るようになる。 制作した動画をWEBまたはCD/DVDにすることで提供できるようになる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		・ 0Aインストラクターとして15年の経験 ・ 各種試験対策、実務向けオフィス活用の指導			
時間外に必要な学修					
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。					
回	テ ー マ		内 容		
1～ 2	静止画の撮影方法		テキストに沿って、撮影方法を学習 テキストに沿って、撮影方法や手法を学ぶ		
3～ 4	撮影技法		テキストに沿って、撮影技法を学ぶ テキストに沿って文章で技法を学ぶ YoutubeやWEBページでは、実際の動画が見れるので確認してみる 一眼レフカメラを使って撮影体験してみる		
5～ 8	動画編集・画像編集		画像の編集 動画のカット、追加、テロップ入れ、BGMの挿入 Clipchampを使って、編集を行う。		
9～ 10	編集練習		編集スキルとして必要最低限の内容を入れて動画を作成する 用意された数本の動画を組み合わせて一本の動画にする。 動画の順番や内容は自分で絵コンテを使って考える。 最終的に出来上がった動画を書き出して見れるようにする。		
11～ 14	オリジナル動画作成		撮影・編集・企画まですべて自分で考えて作成 今まで学習した内容をすべて使って、一本の動画を作成する。		
15	期末テスト・動画発表		動画をYOUTUBEにアップロードする 期末テストとして、著作権などの権利について。 作成した動画をYOUTUBEにあげる		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
はじめてのClipchamp (I/OBOOKS)			期末試験 課題・レポート 制作物	40.0% 30.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
P C実習Ⅳ		こども未来教育学科／3年	2027／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	廣兼 貴恵
授 業 の 概 要				
ワープロ検定とパワーポイントの基礎的なスキルを身につける。ワードの基本的な操作と実践的な文書形式を学び、タイピング速度と正確性を向上させる。パワーポイントでは基本操作からスライド作成、編集を学びアニメーション技法を使ってプレゼンテーションを作成する。				
授業終了時の到達目標				
ワープロ検定の合格と業務に支障が出ない程度のタイピングスキルの習得。 パワーポイントの基本操作と効果的なプレゼンテーションの作成と実施。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	ワープロ検定とパワーポイントの基礎的なスキルを身につける。ワードの基本的な操作と実践的な文書形式を学び、タイピング速度と正確性を向上させる。パワーポイントでは基本操作からスライド作成、編集を学びアニメーション技法を使ってプレゼンテーションを作成する。	授業の目標と説明 当授業における学習目標の共有と資格取得への動機づけ 生徒同士の交流と先生の自己紹介		
2～3	ワード基礎	ワードの基本的な機能や操作方法を理解する。入力から表、罫線、保存など。 タイピング練習 ワードの基本操作の復習		
4～5	入力演習	過去問の解き方。 タイピング練習		
6～8	練習問題・模擬試験	練習問題・過去問題を使った模擬試験		
9～10	本番を想定した模擬試験	本番を想定した模擬試験。 時間を測る。入力文字数も測る 本番を想定した模擬試験		
11	パワーポイントの基本概念とインターフェースの理解	画面構成や基本操作 操作をしながらの画面構成や基本操作の説明と実演		
12～15	パワーポイントを使用してプレゼン作成	テーマを決めてプレゼン作成 自分でテーマを決めて、プレゼンテーション作成。 一人5分程度。最後のコマで発表する。 画像、アニメーション使用		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		検定 課題・レポート	50.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ビジネス文書Ⅰ		こども未来教育学科／3年	2027／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	近藤 美沙子
授 業 の 概 要				
・ビジネス実務に役立つ文書作成技能について、知識と技能の基本を身につけ、普通の文書を正しく理解し、作成できるようにする。				
・ビジネス文書実務検定3級合格レベルの知識を身につける。				
(1)表記技能 ①用字・用語（漢字） ②書式（社内文書・社外文書レイアウト）				
(2)表現技能 ①正確・分かりやすい文書（日本語力） ②礼儀正しい文書（手紙用語）				
(3)実務技能 ①社内文書／社外文書の書き方 ②文書の取り扱い（郵便知識） 他				
授業終了時の到達目標				
・実務技能検定協会主催 ビジネス文書技能検定試験 3級 合格				
（上司の指示による普通の無事ネス文書を作成することができるレベル）				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	ビジネス文書検定の必要性を知る	・検定目的・運営・評価の説明、ビジネス文書の必要性		
2	用字1	片仮名文を漢字交じりの文に直す 句点、読点の打ち方・改行の仕方 幹事の書き表し方		
3	用字2	同音意義 慣用句の手紙用語		
4	用語 書式	社内文書と社外文書の違い 構成とレイアウト		
5～ 15	検定対策	過去問題1～11		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ビジネス文書検定3級受験ガイド（早稲田教育出版）		総合評価	100.0%	【準備学習】
・ビジネス文書検定実問題集3級（早稲田教育出版）				過去問題を何度も復習する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅳ		こども未来教育学科／3年	2027／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
・ 専門学校での学習の意味を理解し進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける				
授業終了時の到達目標				
・ 自己PRや志望動機など履歴書に必要な項目を自ら考えて表現することが出来る				
・ 就職活動の進め方を理解し自主的に活動することが出来る				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭			
時間外に必要な学修				
・ 「物の見方」「考え方」「行動の仕方」を意識的に前向きにして「気付くこと」を習慣化する				
回	テ ー マ	内 容		
1	履歴書を作成する①	履歴書を作成する①		
2	履歴書を作成する②	履歴書を作成する②		
3	履歴書を作成する③	履歴書を作成する③		
4	情報収集編	情報収集編		
5	興味のある仕事について調べる	興味のある仕事について調べる		
6	考え方(その1)①	考え方(その1)①		
7	考え方(その1)②	考え方(その1)②		
8	プレゼンの基本と応用	プレゼンの基本と応用		
9	他の学生との違いをアピールする方法	他の学生との違いをアピールする方法		
10	企業の話しを聞こう	企業の話しを聞こう		
11	面接のポイントを理解する	面接のポイントを理解する		
12	動画教材：ディスカッションの基本と応用①	動画教材：ディスカッションの基本と応用①		
13	動画教材：ディスカッションの基本と応用②	動画教材：ディスカッションの基本と応用②		
14	動画教材：ディスカッションの基本と応用③	動画教材：ディスカッションの基本と応用③		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
熱血！森吉弘の就活ゼミ教材 勝つ！	一生役立つスキルで就職に	課題・レポート	100.0%	